

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 材 知		
北海道芸術デザイン 専門学校	昭和51年5月1日	杉 澤 投 吉	〒001-0027 札幌市北区北27条西8丁目 (電話) 011-756-0777		
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地		
学校法人 美専学園	昭和62年12月4日	高 橋 英 雄	〒001-0027 札幌市北区北27条西8丁目 (電話) 011-756-0777		
目 的	学科の目的 環境デザイン学科(インテリアデザイン専攻)の各分野に関するプロ養成に必要な、「基礎から実践」までを教育することを目的とし、次の事項に重点的に取り組む。 ・各分野のプロになるための技術や知識を学ばせ就職させる。 ・国家資格を中心に各種の資格取得を推進し、社会の発展に寄与する実践的な能力・態度を育てる。 ・いかに学生・保護者・就職先企業等のニーズに応えるか、各分野における諸課題を主体的・創造的に研修し実務的な職業教育を施す。				
課 程 名	学 科 名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
文化教養分野 専門課程	環境デザイン学科 (インテリアデザイン専攻)	2年(昼)	2,400単位時間 (又は単位)	平成7年1月23日 文部省告示第7号	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技
	90単位時間 (又は単位)	2310単位時間 (又は単位)	0単位時間 (又は単位)	0単位時間 (又は単位)	0単位時間 (又は単位)
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人の内数	11人	2人	11人	13人	
学期制度	■前期：4月1日～9月28日 ■後期：9月29日～3月31日		成績評価	■成績表 (有・無) ■成績評価の基準・方法について 授業担当教員が課題の成果・提出状況・出席状況等を総合的に評価する。	
長期休み	■学年始め：4月9日 ■夏 季：7月28日～8月17日 ■冬 季：12月17日～1月12日 ■前 期 末：9月10日～9月28日 ■学 年 末：3月4日～4月7日		卒業・進級条件	教育指導計画にしたがって授業科目を履修し、その成果が満足できると認められるときは、各学年の課程の修了又は卒業を認定する。卒業必要授業数2400単位時間	
生徒指導	■クラス担任制 (有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 面談及び保護者との連携		課外活動	■課外活動の種類 北海道私立専修学校各種学校連合会札幌支部体育事業の参加、地域清掃等 ■サークル活動 (有・無)	

<p>主な就職先</p>	<p>■主な就職先、業界 住宅メーカー、不動産会社、家具メーカー、インテリアデザイン事務所、設計事務所、ディスプレイ業 ほか</p> <p>■就職率 66.7%</p>	<p>主な資格・検定</p> <p>商業施設補、福祉住環境コーディネーター資格、建築CAD検定、Illustratorクリエイター能力認定試験、Photoshopクリエイター能力認定試験、色彩士検定、ビジネスマン能力検定</p>
<p>中途退学の現状</p>	<p>■中途退学者 0名 ■中退率 0%</p> <p>平成25年4月1日在学者8名（平成25年4月入学者を含む） 平成26年3月31日在学者8名（平成26年3月卒業生を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 健康及び経済的理由による進路変更</p> <p>■中退防止のための取組 補習の実施と保護者への連絡・連携</p>	
<p>ホームページ</p>	<p>URL: http://www.bisen-g.ac.jp/</p>	

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

本校の教育目標「各専攻における専門教育および職業教育の確立」を達成するために、指導内容や各種特別活動等を総合的に組織する一連のPDCAサイクルにおいて、教育課程編成委員会でその教育効果を検証し、企業等委員からの意見・助言を取り入れ、開設科目編成や授業内容の改善等を図っていくものとする。

- ・ 学生の就業先の業界動向に関する最新情報を収集し、現場の実務で求められる専門スキルに対応した授業科目の開設や授業課題の設定、ICT関連機材等の学習環境整備、教材開発等に活用する。
- ・ 企業等委員から経営者としての視点による助言を受け、即戦力となる人材育成のために、学生がインターンシップや職場体験、現場見学等を経験できる機会を創出する等、社会人としての基礎力および実務スキル向上につながる授業内容や指導方法の改善に取り組む。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成26年9月30日現在

名前	所属
佐野 公康	株式会社デービス 代表取締役
西村 昌実	北海道イラストレーターズクラブα 会長
井上 俊彦	一般社団法人 札幌・北海道コンテンツ戦略機構 理事長
内藤 卓也	株式会社ジュリアジャパン 取締役社長
野村 光雄	株式会社デザインミック 代表取締役
薄木 健友	株式会社フルーロン花佳 代表取締役
鈴木 理	株式会社鈴木理アトリエ一級建築士事務所 代表取締役
中山 眞琴	株式会社ナカヤマ・アーキテクト 代表取締役
杉澤 投吉	北海道芸術デザイン専門学校 学校長
堀口 徳久	北海道芸術デザイン専門学校 副学校長
高橋 美絵	北海道芸術デザイン専門学校 教務部長
飯塚 哉子	北海道芸術デザイン専門学校 学務部長・建築デザイン学科長
山内 芳美	北海道芸術デザイン専門学校 産業デザイン学科長
田中 政史	北海道芸術デザイン専門学校 マルチメディアデザイン学科長
桂 充子	北海道芸術デザイン専門学校 環境デザイン学科長

(開催日時)

第1回 平成26年8月27日 16:00～17:30

第2回 平成27年1月21日 16:00～17:30 (予定)

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

本校の教育目標「各専攻における専門教育および職業教育の確立」達成のため、各専攻関連分野の企業および業界団体と連携し、実践的な職業教育の実施に必要なカリキュラムの作成、講義および研修の実施、各種教材の作成等において、緊密な協力体制を構築・維持するものとする。

- ・ 職業教育協定書に基づき、各専攻関連分野の企業および業界団体から、各専門分野の指導講師として人材の派遣を受ける。
- ・ 担当教科目の指導計画について事前に協議し、各教科目のねらいに沿って授業内容や実施方法、評価の観点等についてまとめた指導計画書(シラバス)を作成し、指導講師と教務部で情報を共有する。
- ・ 学修成果の評価指標・手法についても予め協議し、演習終了後には指導講師による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価・単位認定を行う。

科目名	科目概要	連携企業等
デザイン演習	実務に即したインテリア提案課題。実際のインテリア工事ではクライアントの要望、予算など様々な制約がある。条件を踏まえつつ、より実践的なインテリアの提案を行う。スケール感、素材感を学びつつ、要望に対する自分らしい回答を考える。課題はアイデアを企画するところから、素材、収まりなどを学びつつ図面に起こす。素材に親しみ、自身の提案に役立てる。	Aterlie Monogoto 一級建築士事務所
基礎技術演習Ⅰ	人間工学を基にしたインテリア計画の初歩的学習へ結びつける。基本設計演習では、設計条件分析、発想方法、さらにそれらを具体化させ、ラフプランニングを図面化して設計の流れを学び、インテリアデザインを具体的な形に発展させる。	一級建築士事務所 株式会社 ナックデザイン
専門技術演習Ⅰ	デザインの意図を伝えるコミュニケーション・ツールとしての模型の意味を考え、基本的な模型制作の表現方法・技術を学修する。模型制作を通し、インテリアデザインにおける素材や家具などの基準寸法・基本単位を身につけ、デザインするスペースのスケール感を把握する事を目的とする。また制度のある模型制作技術を修得し、デザイン意図を確実に伝えるプレゼンテーションを高める事が目標。	ワークショップ・マスタード
プレゼンテーション	カフェレストランの計画・設計をモデルにして、市場、コンセプト、プランニング、設計を学ぶ。人体動作と基礎空間（動線計画と平面レイアウト・展開寸法）の把握。各部の機能を理解し、店舗全体のデザイン設計を行う。必要なインテリア関連法規を学ぶ。	株式会社 スーパーブロック
基礎技術演習Ⅱ	ショールーム・展示会・家具店・衛生機器メーカーを訪問し、それぞれの特色を知りデザイナーとしての幅広い分野の知識を得る事を目的とする。実際の仕事現場を身近に感じて、漠然とした目標から、細分化し、より具体的な目標を固め、即戦力のある人材を育成する事が目的。	株式会社 KANNA DESIGN ARCHITECTS STUDIO

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

本校教職員研修規程に基づき、研修は、教職員が現在就いている職に係わる職務の遂行に必要な知識、技能、資質等の向上を図ることを目的とし、そのため教職員の資質に応じた研修計画を策定し、校内外で催される必要な研修を受ける機会を学園として認め、経費を負担することとする。

- ・ 教職員は、業務に支障のない限り、理事長の承認を受け校外の産業現場等、勤務場所を離れて研修を行うことができるものとする。
- ・ 各専攻関連分野の業界団体主催による各種技能研修や、ICT機器・アプリケーションソフト関連セミナー等の受講機会を確保し、最新の実務知識・技術・技能の計画的修得および向上に努める。
- ・ 授業および学生に対する指導力向上のため、各種職能団体が運営する指導員研修への参加や、所定の年

度に大学等で実施される教員免許更新講習等を受講する機会を確保する。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成26年9月30日現在

名 前	所 属
河村和義	株式会社アトリエK一級建築士事務所 代表取締役
櫻井俊二	北海道芸術デザイン専門学校校友会会長
安田昭夫	北海道芸術デザイン専門学校元学校長・北海道札幌白石高等学校元校長
山森鉄夫	司法書士 山森鉄夫司法書士事務所 所長
杉澤投吉	北海道芸術デザイン専門学校 学校長
西尾正道	北海道医薬専門学校 学校長
館山昭	北海道医薬専門学校 副学校長
堀口徳久	北海道芸術デザイン専門学校 副学校長

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.bisen-g.ac.jp/>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

- ホームページ <http://www.bisen-g.ac.jp/>
- SNS (Facebook) <https://www.facebook.com/bisengakuen>
- 北海道私立専修学校各種学校連合会の発行する「北海道専修学校概要」等の進学情報への掲載

授業科目等の概要

文化教養分野専門課程 環境デザイン学科（インテリアデザイン専攻）平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			一般教養（一般教養知識）	社会人としての一般教養、常識、礼儀などビジネス社会に必要な知識を身につけ、ビジネス能力検定ジョブパス3級の合格を目指す。	1前	30	1	○		△
○			英会話	英会話の学習を通じて、社会人としての教養を身につける。	1前	30	1	○		△
○			デザイン概論（インテリアデザイン基礎演習）	近代以降の建築を知り、インテリアデザインが、建築デザインの密度を高める重要な役割を担っている事を学ぶ。	1前	30	1	○		△
○			色彩学（色彩）	色彩学における基本的な理論の学習、絵の具、カラーカードを用いた学習により色彩士検定3級の習得を目指す。また実践的な色彩計画をたてられる能力を身につける。	1前	30	1		○	△
○			美術史（インテリア計画演習Ⅰ・Ⅱ）	人間工学インテリア計画の初歩的学習を行う。設計条件分析、発想方法、さらにそれらを具体化させラフプランニングを図面化し、設計の流れを学ぶ。	1前	30	1		○	△
○			デザイン（インテリアパース基礎演習Ⅰ・Ⅱ）	自己イメージの模索、形成過程、クライアントへの提案ツールの一つとしての、効果的なインテリアパースの習得を目指す。一点透視・二点透視の簡易図法を学び演習課題で学ぶ。	1前	30	1	△	○	△
○			基礎技術演習Ⅰ（インテリア構造法規）	木造在来軸組み工法について学び、模型を作りながら部材の構成を立体的に把握し、構造の原理、法規についても理解する。	1前	30	1	△	○	△
○			基礎技術演習Ⅰ（色彩）	インテリアブラインドのカラーデザイン演習とブラインドを使用した新しい空間構成の提案と作品制作を学ぶ。	1前	30	1	△	○	△
○			基礎技術演習Ⅰ（インテリアプレゼンテーション基礎）	Illustratorの習得とプレゼンテーションにおけるDTP作業テーマコンセプト内容が人に伝わる作品説明になるように、レイアウト、色彩学を応用し、より良い作品作りを目指す。	1前	60	2	△	○	△

○		基礎技術演習 I (DTP 基礎演習)	コンピューターの基本操作と、Illustrator, Photoshop の基本操作の習得。ポスター制作の演習。	1 前	30	1	△	○	△
○		基礎技術演習 I (インテリア計画演習 I・II)	人間工学インテリア計画の初歩的学習を行う。設計条件分析、発想方法、さらにそれらを具体化させラフプランニングを図面化し、設計の流れを学ぶ。	1 前	30	1	△	○	△
○		基礎技術演習 I (図学・基礎製図演習 I・II)	木造住宅の設計。コンクリート造内部の軽量鉄骨下地、納まり詳細図を学ぶと共に、インテリア製図の基本・インテリア設計に必要な設計図の読み方を学ぶ。	1 後	30	1	△	○	△
○		基礎技術演習 I (インテリアディテール)	自分の考えた空間を、ラフプランから実際に制作するまで学習し、素材研究とディスプレイデザインを通して、インテリア空間を実際にデザインする過程を学ぶ。	1 後	30	1	△	○	△
○		基礎技術演習 II (インテリア構造・法規)	木造在来軸組み工法について学び、模型を作りながら部材の構成を立体的に把握し、構造の原理、法規についても理解する。実際の現場を見学し模型で学んだ躯体と部分詳細を確認する。	1 前	30	1	△	○	△
○		基礎技術演習 II (インテリアエレメント基礎)	内装材・ファブリックス・家具・照明のインテリアエレメントに対する知識を学び、ショールームで実際に確認する。新商品の展示会に参加する事でインテリア業界を体験する。	1 前	60	2	△	○	△
○		基礎技術演習 II (インテリアデザイン基礎演習)	著名なインテリアデザイナーに関する研究。また PP シートを用いた照明器具をデザインから制作までを学び、プロダクト開発(製品開発)の過程を体験する。	1 前	90	3	△	○	△
○		基礎技術演習 II (図学・基礎製図演習 I・II)	木造住宅・鉄骨造・コンクリート造の設計で学んだ技術を、演習を通して実際の設計業務に活かせる様にレベルアップする。	1 前	60	2	△	○	△
○		専門技術演習 I (インテリアパース基礎演習 I・II)	簡易図法鳥瞰図を学び、演習課題で様々な着彩技法を習得する。自由課題によるまとめとして各々が考えたインテリア空間をパース表現で制作する。	1 前	30	1	△	○	△
○		専門技術演習 I (3D デザイン演習 I)	Vector Works の 2D では表現できない空間構成を、3D 表現基礎を学び、さらにプレゼンボードの作成に、効果的に表現する技術を習得する。	1 後	30	1	△	○	△
○		専門技術演習 I (CAD 基礎演習)	製図技法、表現技法としての CAD をとらえて、その技術習得を目指す。建築 CAD 検定 3 級を目指す。	1 後	30	1	△	○	△
○		専門技術演習 I (インテリア模型 I)	インテリアプレゼンテーションに効果的な模型制作を習得する。図面を基に制作するなかで、インテリア素材や家具に対する観察力を磨くことを目的とする。	1 後	30	1	△	○	△

○		専門技術演習Ⅱ（インテリアアパース基礎演習Ⅰ・Ⅱ）	演習課題で様々な透視法を選択し、主に着色技法を習得する。添景の描き方を学び、自由課題によるまとめとして作品を制作する。	1後	30	1	△	○	△
○		専門技術演習Ⅱ（インテリアデザイン演習）	学生コンペを通じて、コンセプトメイキングからアイデアを具体化し、インテリアプレゼンテーション能力の向上を目指す。	1後	30	1	△	○	△
○		専門技術演習Ⅱ（住宅設計基礎演習）	小課題を通して、自由な発想とプレゼンテーション能力を養い、進級制作や、次年度の住宅設計演習に、スキルを活かせる事を目的に授業を行う。	1後	60	2	△	○	△
○		DTP演習（DTP基礎演習）	コンピュータの基本操作とソフトIllustrator・Photoshopの基本操作の習得。Illustratorスタンダード検定取得を目指す。	1前	30	1	△	○	△
○		前期課題制作	日常の実習を通して学んだ発想・技法を活かし、前期のまとめとして課題制作する。	1前	30	1	△	○	△
○		後期課題制作	日常の実習を通して学んだ発想・技法を活かし、後期のまとめとして課題制作する。	1後	30	1	△	○	△
○		コンペ課題制作（インテリア計画演習Ⅰ・Ⅱ）	人間工学インテリア計画の初歩的学習から、設計条件分析、発想法、さらにそれらを具体化させラフプランニングを図面化し、設計の流れを学び、「住まいのインテリアコーディネーション」コンペに応募する。	1後	30	1	△	○	△
○		進級制作	クライアントの要望に基づいたテーマ設定のもと、設計計画からプレゼンテーションまで、実践的な提案に取り組む。1年間のまとめとして、完成度の高い提案を目指し、全力を尽くして取り組む。	1後	180	6	△	○	△
○		各種概論（業界研究）	道内のインテリア業界を知り、研修・訪問などを通して実社会を深く知る事で、総合的なインテリアの仕事を理解し、就職活動へ繋げて行く。	2前	30	1	△	○	△
○		色彩応用（レイアウト演習）	コンセプトの考え方、色彩計画、レイアウト、パースなどインテリアプレゼンボードをまとめる能力を強化し、色彩応用によるインテリアデザイン表現を学ぶ。	2前	30	1	△	○	△
○		各種技術論（商業施設デザイン演習）	店舗における商環境の理解と効果的な空間デザイン計画に必要な関連法規・各部詳細・エレメントの知識を習得し、実践的な計画図一式を制作し、インテリアデザイナーの仕事学ぶ。	2前	60	2	△	○	△
○		表現技術演習（3Dデザイン演習Ⅱ）	Vector Worksの空間構成を、さらに効果的に表現する技術を学び、演習課題を通して住空間・商業施設のインテリアデザインを表現する	2前	60	2	△	○	△

○		材 料 学 (住宅設計演習)	住宅の設計を中心に幅広く建築に触れ、計画する意味や楽しさを見出し、材料と構造を学びながら演習課題を制作する。	2 前	30	1	△	○	△
○		プレゼンテーション (レイアウト演習)	コンセプトの考え方、色彩計画、レイアウト、パースなどインテリアプレゼンボードをまとめる能力を強化し、色彩応用によるインテリアデザイン表現を学び、コンペ作品に取り組む。	2 前	30	1	△	○	△
○		プレゼンテーション (商業施設デザイン演習)	店舗における商環境の理解と効果的な空間デザイン計画に必要な関連法規・各部詳細・エレメントの知識を習得し、実践的な計画図一式を制作し、インテリアデザイナーの仕事を学ぶ。	2 前	30	1	△	○	△
○		プレゼンテーション (プレゼンテーション)	プレゼンテーションボードに必要な正しい製図法や図面、パースの概念、見る人に伝わりやすい表現方法、レイアウトを学び、伝えたい事が確実に伝わる手法を DTP を通して学ぶ。	2 前	60	2	△	○	△
○		デザイン演習 (住宅設計演習)	住宅の設計を中心に幅広く建築に触れ、計画する意味や楽しさを見出し、材料と構造を学びながら演習課題を制作する。住空間のデザインを学ぶ。	2 前	60	2	△	○	△
○		デザイン演習 (インテリアプランニング演習)	「PrimaryImages」床・壁・天井・扉の課題で、自分が作ってみたい物をデザインする。詳細図は実際に作る事を前提とし、コンセプトやアイデアのオリジナリティを追求する。	2 前	60	2	△	○	△
○		応用技術演習 I (インテリア模型 I)	インテリア模型 I で習得した技術を、課題を通して応用し、素材加工や技法の理解を深め、卒業制作の模型課題・実際の設計プレゼンテーションに活かす。	2 前	60	2	△	○	△
○		応用技術演習 I (インテリア CAD)	インテリアデザインに CAD を応用し、家具・室内 2D/3D 空間の作成。演習課題のプレゼンテーションボードまでの作成まで CAD/CG テクニックを深く理解し、習得する。	2 前	60	2		○	
○		応用技術演習 II (インテリア模型 II)	インテリア模型 I で習得した技術を、課題を通して応用し、素材加工や技法の理解を深め、卒業制作の模型課題・実際の設計プレゼンテーションに活かす。	2 前	30	1		○	
○		応用技術演習 II (インテリア CAD)	インテリアデザインに CAD を応用し、家具・室内 2D/3D 空間の作成。演習課題のプレゼンテーションボードまでの作成まで CAD/CG テクニックを深く理解し、習得する。	2 前	60	2		○	
○		応用技術演習 II (3D デザイン演習 II)	Vector Works の空間構成を、さらに効果的に表現する技術を学び、演習課題を通して住空間・商業施設のインテリアデザインを表現する	2 前	30	1		○	
○		前期課題制作	日常の実習を通して学んだ発想・技法を活かし、前期のまとめとして課題制作する。	2 前	30	1		○	

○		コンペ課題制作 (インテリアプランニング演習)	「PrimaryImages」床・壁・天井・扉の課題で、自分が作ってみたい物をデザインする。詳細図は実際に作る事を前提とし、コンセプトやアイデアのオリジナリティを追求する。JAPANTEX デザインコンペに応募する。	2 前	30	1	△	○	△
○		卒業制作	クライアントの要望に基づいたテーマ設定のもと、設計計画からプレゼンテーションまで、実践的に取り組み、2年間の集大成として発想力アイデア、技術の全力を尽くし完成を目指す。	2 後	450	15		○	
合計			27 科目	2400 単位時間 (80 単位)					